

1. 死亡秩序の近代化に関する若干の追加分析……………山本文夫(佐賀大学)
2. 人口移動研究の動向……………黒田俊夫(人口問題研究所)
3. 人口変動と世帯・家族構成の変化……………上田正夫(人口問題研究所)
4. 世界人口の変動と日本の立場……………西野入徳(国土館大学)  
(上田正夫記)

## 日本家政学会第21回総会

日本家政学会第21回総会は、昭和44年10月3日(金)から5日(日)の3日間にわたり、東京の日本女子大学において開催され、本研究所から内野澄子技官(人口移動部移動科)が出席した。

第1日は、学会賞受賞者講演ならびに「関連諸科学からみた家政学」と題したシンポジウムが行なわれた。第2日と第3日において行なわれた一般報告は274題に上り、このうち人口に関連を持った報告をあげると次のとおりである。

- ファミリー・サイクルに対応する教育費……………伊藤秋子(お茶の水女子大学)
- ファミリー・サイクルに対応する理論食料費……………新垣都代子(琉球大学)
- 共稼ぎ主婦の生活構造……………岡村益(福島大学)
- 我が国の婦人の職業上及び家族上の地位……………本田弘子(光華女子短期大学)
- 人口移動と食生活の構造的変化—主食形態を中心として—……………内野澄子(人口問題研究所)  
(内野澄子記)

## 1969 日本地理学会秋季大会

1969 日本地理学会秋季大会は、昭和44年10月9(木)~12(日)の4日間にわたり仙台市宮城教育大学附属中学校で開催された。本研究所からは、伊藤達也技官(人口移動部移動科)が出席した。

研究発表は、研究委員会とシンポジウムに分けて行なわれた。研究委員会は、9日夜、都市地理学研究委員会、農業地理学研究委員会、計量地理学研究委員会(以上白萩荘)、地理学と教育研究委員会(宮城寮)と水文学研究委員会(翠風荘)の5会場に分かれて開かれた。

10日のシンポジウムは、「広域中心都市」、「東北日本の農業の変化」と「日本における気候地形」の3テーマであった。広域中心都市では、広域中心都市とは何か? それを表わす指標と内容に討論が集中したが、結論は得られず、今後の研究課題として残された。

11・12日は、エクスカージョンで、四つのコースに分かれ東北各地に散っていった。

(伊藤達也記)

## 第23回日本人類学会日本民族学会連合大会

第23回日本人類学会日本民族学会連合大会(会長 須田昭義)は、京都大学霊長類研究所が開催引き受け機関となり、昭和44年11月12(水)~14(金)の3日間、愛知県犬山市名鉄犬山ホテルにおいて、近藤四郎大会委員長の下に開催された。人類学関係の研究発表は第1日午前午後および第2日午前に行なわれ、民族学関係は第2日午後に行なわれ、第3日には2題のシンポジウムが開かれた。

本研究所からの参加者は、篠崎信男（人口資質部長）、小林和正（資料課長）および青木尚雄（人口資質部能力科長）の3技官で、第1日午後の研究発表で、小林（東大 葭田光三と共同報告）は「日高地方におけるアイヌ-和人の混血人口の形成について——北海道浦河姉茶部落の事例において——」、青木は「出生順位別特殊出生率の動向について」報告を行なった。

篠崎信男は第3日のシンポジウムA「生体と生活」において司会をつとめ、「家政経営学における人類学」、「体力と生活」、「夜勤における機能変化」および「人間と機械の接点としての反応時間」の4報告が行なわれた。（小林和正記）

## 第6回日本老年学会総会・第11回日本老年医学会 総会・第11回日本老年社会学会総会

標記3学会総会が昭和44年11月20（木）～22（土）の3日間にわたり、大阪市、大阪厚生年金会館において開催された。

日本老年学会としては会長（国立大阪病院院長 吉田常雄）の演説を始め、日本老年医学会会長（大阪大学精神神経科教授 金子仁郎）の「老年精神医学の現状と将来」について、日本老年社会学会会長（相愛女子大学教授 橘 覚勝）の「Aging の発見」についての講演があり、特別講演として「老年者の社会保障」（ILO東京支局調査部長 高橋 武）、「加齢と疾患」（東京大学教授 吉川政己）の2題と、シンポジウムとして「老年期精神障害の医学的社会的問題」（司会、金子・橘両教授）があり、4報告をめぐって討議が行なわれた。

日本老年医学会総会においては、特別講演「向老期以後における健康診断の判定基準について」（大阪府立成人病センター所長 千田信行）と、シンポジウム「老年者と心血管系」（司会、大阪医科大学教授 原亨）があり、一般演題は205題を数えた。

日本老年社会学会総会においては、特別講演「老年福祉の意義についての考察」（大阪市立大学教授 岡村重夫）を始め、シンポジウム「老人福祉の展望」（司会、神戸女学院教授 雀部猛利）についての報告と討論があり、特別報告「国際老年学会に出席して」（寿命学研究会会長 渡辺 定、淑徳大学教授 大間知千代）のほか、一般演題として20題の報告があった。一般演題のうち、人口に直接関係のあるものは、本研究所から出席した上田正夫（人口政策部長）、小林和正（資料課長）両技官による次の2題の報告のみであった。

わが国老年人口の分析……………小林和正

新推計将来人口からみた老年人口の動向……………上田正夫

（上田正夫記）

## 第15回国際連合人口委員会

1969年11月3日から同14日まで、在ジュネーブ国連ヨーロッパ事務局において、第15回国連人口委員会（Fifteenth Session of the Population Commission）が開催され、館 稔所長がこれに出席した。

現在、人口委員会はブラジル、カメルーン、中央アフリカ共和国、チェコスロバキア、デンマーク、エクアドル、フランス、ガーナ、インド、インドネシア、ジャマイカ、日本、ケニア、ニュージーランド、パキスタン、ペルー、フィリピン、ルワンダ、スペイン、スウェーデン、ウクライナ、ソビエト連邦、アラブ連合、イギリス、アメリカ合衆国、オードボルタ、およびベネズエラの27か国で構成されているが、今回は、